

「phantaz.ma 35° 68'N 139° 72'E」

急病による入院のため、残念ながら本日、みなさまと一緒にリアル空間を共有することが難しくなっていました。リアルなsawakoに会えると思ってご来場されていた方々には、お詫び申し上げます。本日今この瞬間も、少し離れた所から、会場のことを想っております。

今日の演奏のタイトルは、古典ギリシア語で『φάνταζω (phantázō)「可視化する」 + -μα (-ma)「された結果」』という言葉が、ラテン語の『phantasma』になって、『phatom (幻、幽霊、夢の存在)』『fantasy (幻想)』『phase (現象)』の語源になったということからきています。ファムフェタールとも少し音の響きが似ていますね。『phantaz間』としたら「間の可視化」になるのでしょうか。

演奏の収録は信濃町の病院で行われました。病院の窓からは、坂本龍一さんが最後まで活動が続けて守ろうとしていた神宮外苑の森が、美しく見えています。

森の中で一人でフィールドレコーディングをしている時でも
たくさんの聴衆に見守られながらパフォーマンスをしている時でも
音の国にいる時、私はいつでも
自分の体が半透明に消えてしまって
空気や周波数の大海に溶けていく感覚を持っています
時間空間に拡張していく

生身の身体、タンジブルな物体
都会と森、地球、宇宙の星々、さまざまな存在の蠢き、気配、音の波
現れては消えていく、手に掴めなくて儚いもの

森羅万象のパルス
電磁波やデータWEBの流れ
粒と波、重なり
共鳴、共振
華嚴經の縁起の鈴

そんな中で、私とあなたが出会う、交差する

見えないもの

人間の身体センサーでは感知できないもの

時間と空間のない世界

AIやヴァーチャルヒューマンが日常になった今の世界で
生身の身体とは、どういった存在なのでしょう？
そんな身体がセンシングして見せている現象は？

2024.02.24(Sat) by sawako (www.troncolon.com)